2026年 秋のオンライン 交流集会

9 月 12 日（土）～ 13 日（日）

全大教では、教研集会を２年に１回とし、教研集会のない年は教文部の主催でウェブ交流集会を開催しています。全体集会等は置かず、教研集会よりもカジュアルな形で、各専門部、協議会が企画を立案、実施するという会合です。今年は開催の年で、9 月 12 日（土）～ 13 日（日）にわたって集会し、39 単組 79 人が参加いたしました。

初日は大学共同利用機関、高専協議会、公立大学協議会、事務職員部の企画が、二日目は組織拡大ＷＧ、女性部、非常勤職員部、ハラスメント対応ＷＧ、教文部、附属学校部の企画が並びました。教文部企画「大学認証評価制度について考える」には、普段「三団体協議会」にて学校教育法の改善をめぐって連携している日本私大教連、公大連からも多くの参加をいただきました。私たちを取り巻く状況について再確認し、情報交換や連帯の確認の機会となりました。それぞれの企画の具体的な内容は個別の記事をご覧ください。（教文部長　山口 裕之）

教文部企画

教文部企画のテーマは「大学認証評価制度について考える」です。現在、国立大学は7年ごとの機関別認証評価、6年間の中期目標・計画期間の中間と終了時の計画達成状況の評価、毎年の運営費交付金の配分に関する成果連動型の評価配分等、様々な評価にさらされています。さらに昨今、中教審で新たな評価制度案が議論され、学部単位で学生の学修成果に基づいて評価し、一学部でも基準が未達成なら再受審の扱いとなる、といった案が取りまとめられています。これはマズいのではないかということから、テーマとして取り上げました。

集会ではまず、全大教の光本さんより制度全体を概観するレクチャーがありました。戦後、学問の自由の発展のため大学独自のピア評価が目指されたものが、政府による大学設置基準として取り込まれ、統制が強化されてきた。新たな評価制度案では、文科省が評価の基準や方法等を統制し、是正措置権と連結して大学の教育目標・組織等を統制しようとする点で大きな問題がある。これでは日本の大学評価制度が国際標準から外れてしまいかねないとのことでした。

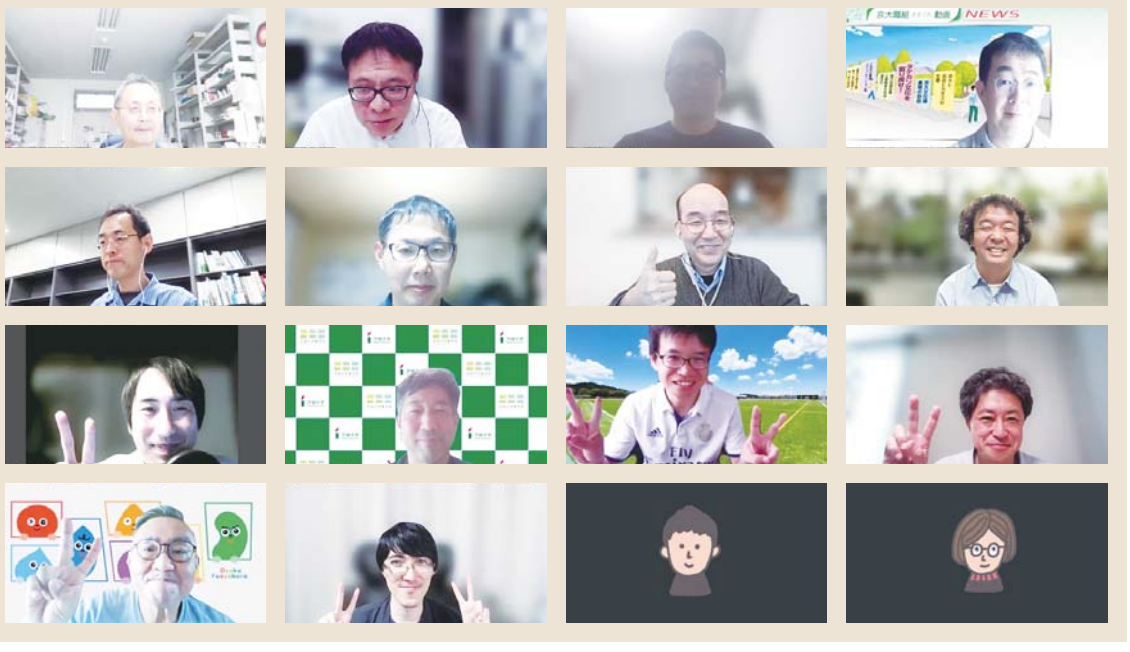
次いで日本私大教連の山賀さんより、私立大の認証評価と経常費補助の評価配分について報告がありました。新たな評価制度案では、評価結果を使って経常費補助の削減・重点配分化を行うとされている。こうした議論の背景には「教学マネジメント」政策があり、日本私大教連はそうした政策の見直しを求める「私立大学政策提言」を行ったとの報告がありました。

最後に公大連の斎藤さんより、認証評価制度について組合員から集めた意見の報告がありました。「管理職がとりまとめをしているため一般の教員の負担は大きくない」といった意見の他、「本来、国が負担すべき認証評価の費用を大学・自治体が負担している」といった意見が報告されました。

発表後の議論では、「学生の学修成果をどうやって測るのかは難しい。国が一律の尺度で測ろうとするのは問題がある」など、様々な意見が上げられ、活発な議論が行われました。

（教文部長　山口 裕之）

組織拡大 WG 企画



組織拡大分科会では、まず講師の小松さん（大阪府職労）の講義で「コミュニティ・オーガナイジング」について学びました。

最初に、みんなでこの学習会でのルールを決めました（「攻撃しない」など）。

（2面へつづく）

全大教新聞
2026年10月10日
第448号

【発行所】
全国大学高専教職員組合
（略称・全大教）

［PDF 版（全面カラー）］
http://zendaikyo.or.jp/?page_id=107
［電話］03-6802-4250
［HP］http://zendaikyo.or.jp/
［所在地］〒110-0012
東京都台東区竜泉
2-20-15 都築ビル 2 階

＊組合員の購読料は組合費に含まれています

今月の紙面

【特集】2026年 秋のオンライン交流集会
2 9月12日（土）分科会
・大学共同利用機関部企画
・高専協議会企画
・公立大学協議会企画
・事務職員部企画
3 9月13日（日）
・女性部企画
・非常勤職員部企画
4 9月13日（日）
・ハラスメント対応WG企画
・附属学校部企画